団体名　名古屋水域研究会

堀川に（たぶん）唯一残る木材クレーン視察会

■活動の内容

名古屋周辺水域の諸問題の調査研究や、堀川に残存する舟運遺構を利用しての動態保存やまちづくりとの連携促進をコンセプトに、堀川での運材の歴史、名古屋城下からの七里の渡しを市民・街道愛好家に体験してもらう活動をされています。

今回は「堀川に残る木材クレーン視察会」に伺いました。

【桂川木材工業株式会社外観】

□活動内容　「堀川に（たぶん）唯一残る木材クレーン視察会」

□開催日時　令和４年11月2日（水）　参加7名

□開催場所　桂川木材工業㈱　中区堀川流域

堀川沿いの「桂川木材工業株式会社」所有の現在も現役である、木材吊り上げ用クレーン『スチフレッグデリック』を稼働させるということで開催された視察会で、団体関係者はじめ、市職員の方などが参加されていた。
まず最初に、デリッククレーンがどのようなものかの説明を受けた。
・堀川沿いには、かつて木材会社がたくさんあったが、今は少ない
・かつては堀川をつかって木材を運搬していたこと、木材会社は木材が売れるまでは写真のように水面に木材を浮かせて保管していた
・売れたら、デリッククレーンで引き上げていた
そう説明を受けて、堀川沿いを歩いてみると、現在は使用されていないクレーン跡が散見された。そこから推測する、かつて水面に木材が浮いている光景が、堀川のいたるところで見られたんだろうと思われる。参加の皆さんは熱心にメモを取りながら説明を受けていた。土地柄、治水地形の特徴を示す箇所も見られ、クレーン以外でも興味をそそられる内容となっていた。
この日は、実際に動かすところを見せてもらえる予定だったが、都合により叶わなかった。しかし、デリッククレーンを動かす施設や機材の見学をさせてもらい。間近でみるデリッククレーンは大きく、資料によるとブーム長さ6.8メートルもある。あらためて、実際に動いているところを見ることができたら迫力があっただろうと感じた。
今回の視察は、失われつつある光景を見せていただく貴重な機会となった。デリッククレーンに着目し、動態保存の必要性を喚起する目的で企画されたこの視察会は、団体の活動趣旨に見合った意義のある内容であると思う。

【クレーン可動部】

【他木材会社の現在は使用されていないクレーン跡】